プラチナ未来人財育成塾

未来のリーダーを育成することを目的として開催されている「プラチナ未来人財育成塾」。毎年各中学校の代表生徒を派遣しています。広報きくち11月～3月号で、参加した生徒の報告書を紹介します。

参加報告

今以上の自分、学校、地域に向かって

菊池北中学校3年　緒方咲良（おがたさくら）

プラチナ未来人財育成塾では、さまざまな立場や異なる場所に住んでいる全国各地の参加者と、これからの日本、地球についてグループワークを通して学びました。私は、地球の未来を守るためには、一人一人の意識と私たちにできることを「考え続けること」「行動すること」が大事だと学びました。

みなさんは、レジ袋とマイバッグでは、どちらが環境に良いと考えますか。実はこれは消費者の使い方次第で環境負荷は大きく変わります。レジ袋は使い捨てですが、マイバッグは繰り返し利用することが可能です。しかし、レジ袋を何度か利用し、さらに最後にごみ袋として利用して捨てた場合は、ごみ袋の分の環境負荷は小さくなります。マイバッグは丈夫に作られる代わりに環境負荷も大きく、少しの回数しか使わなかった場合、レジ袋の環境負荷を大幅に上回ります。

私は、このことを今まで知りませんでした。私たちはもっと環境について正しい知識を十分に学び、考え続けなければいけないと考えました。一人一人が地球を身近な問題として捉え、解決のために意識し考動していけば、二酸化炭素の排出量は大幅に削減できるのです。

例えば、身近な問題としてプラスチックごみの分別があります。どの地域でもプラスチックごみの分別がありますが、汚れたプラスチックを洗って出しているでしょうか。一人一人の小さな心掛けが地球の未来を変える一歩になります。これからの地球のためにも全員が心掛け、一人一人の力を積み重ねていくべきです。そのためには地球の現状の問題について幅広い世代の人に知ってもらう必要があります。私は、たくさんの人に知ってもらうために行動していこうと思います。

そして、この研修で学んだ、意識し、考え、行動するということは、生徒会活動でも生かすことができることだと考えます。菊池北中では、月に一回生徒集会を行っていますが、今までは委員会の活動報告だけでした。しかし、私が生徒会長になった時、せっかく全員が集まるのに活動報告だけではもったいないと思い、他に何かできないか考えました。学年を超え、立場を超えて人と人とがつながることを目指してアイスブレイク活動を行うことにしました。すると、さまざまなアイスブレイク活動をすることによって、生徒集会を楽しんでくれる人が増えました。

今回プラチナ未来人財育成塾で学んだ問題や課題を意識し考え続け、自分にできることを行動します。そして、今以上の自分、学校に向かって成長していき、地域に貢献していきたいと思います。

プラチナ未来人財育成塾

未来のリーダーを育成することを目的として開催されている「プラチナ未来人財育成塾」。毎年各中学校の代表生徒を派遣しています。広報きくち11月～3月号で、参加した生徒の報告書を紹介します。

参加報告

考え続けること

菊池北中学校3年　津川卓巳（つがわたくみ）

「考え続けること」。これが今回、プラチナ未来人財育成塾に参加して学んだことで、特に伝えたいことです。

私が伝えたいことは、答えがある問題は少なく、答えというのは一つではないということです。学校では、基本的に答えがある問題について学ぶことがほとんどです。しかし、世の中の問題は、答えがある方が少ないというお話がありました。私は、そのお話を聴いて、世界は自分が思っていたよりもずっと多面的であるということが分かりました。

例えば、物理学といっても、力学、量子力学、相対性理論など多くの分野に分かれています。それはつまり物事は私たちが思っているよりも多くの視点で見ることができますし、視点の数だけ答えがあり、百点満点の答えなんてないのです。だからこそ、私たちが難しい問題に直面したときにすべきことは、考え続けることです。

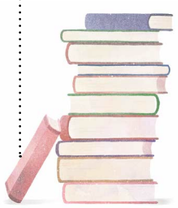
どうしても私たちは難しい問題に直面したとき、あまり考えずにすぐに答えを出しがちです。しかし、楽な方に行くのではなく、考え続けてなるべく百点に近い答えを導き出さなければ、何事も良い方向に向かわないのではないでしょうか。

私も、まさに今難しい問題に直面しています。それは、進路についてです。人生を左右する重要な選択になることは間違いないでしょう。

私自身、高校卒業後の進路として「進学」「就職」「起業」など、さまざまな選択肢を考えており、いろいろなことを考えると、正直どれがいいのか分からなくなっています。しかし、これらの問題から逃げずに考え続けて、より良い答えを導き出さなければならないと思います。

生きていると、問題は無数に降ってきます。自分次第で、今の時代は簡単に問題から目を背け、楽に生きることだってできると思います。問題から目を背けられる時代だからこそ、問題について考え続けることに価値があるのです。人生も社会も持続可能な世界へ向かうために、今、最も重要なことなのです。

人間は考える葦です。考えることは、人間の持つ最も偉大な力です。ぜひその力を使ってより良い答えを導きましょう。



プラチナ未来人財育成塾に参加した市の代表生徒が報告会を行いました。29ページに写真を掲載しています。

作文

生徒体験発表作文

「令和5年度全国福祉高等学校長会第27回総会・研究協議会並びに福祉担当教員等研究協議会宮城大会」の生徒体験発表作文で、菊池女子高校の生徒が最優秀賞を受賞しました。受賞した作文を紹介します。

最優秀賞「文部科学大臣賞」

ことばと想い

菊池女子高校 社会福祉科3年　城下遥花（しろした はるか）

社会福祉科で学び、一年半が過ぎました。さまざまな体験をする中、やはり一番大切なのはコミュニケーションであると考えさせられた出来事がありました。

私のアルバイト先に車いす利用の高齢の男性がよくうどんを食べに来店されます。ある日男性が食べ終わり、お盆を返却する際、近くに座っていた女性が優しい声で「私が代わりに返しますよ」と声を掛けましたが、男性は「いいえ、自分でできるので大丈夫です」と笑顔で返しました。しかし女性は「危ないですから」と半ば強引にお盆を手に取りました。すると、男性が大きな声で「触るな！」と叫びました。普段はとても優しい方が眉間に皺を寄せて「そういう行為は大嫌いなんだ。俺が何もできない人間だと勝手に思うなよ！ 自分でできる。無理なら店員に自分で助けを求められる！」と声を荒げました。女性は深々と謝罪されたため、その場は収まりました。その後男性がお盆を返却に来られ、私に「いつもありがとう。もし助けが必要になったときにお願いね」と言い、帰られました。

6月に行った介護実習でも同じような体験をする機会がありました。実習先に骨粗しょう症のAさんがいらっしゃいました。Aさんはとても骨がもろい状態だったため、トイレまでの移動に車いすが必要でした。しかし、Aさんはとても自立心が高く「自分で歩く、絶対に乗りたくない！」と拒絶されていました。その時、職員さんはAさんに「ここは私にお手伝いさせてください。その後よろしかったら私の代わりにあそこの洗濯物をたたんで頂けますか」と声を掛けると、Aさんは「分かった」と納得されました。介助の後、職員さんから「介護の現場では、行動一つで怪我を引き起こし、命に関わる危険性があるから、拒絶をされても安全策を取ります。命が最優先だからね。ただ、利用者さんが快く理解してくださるためにどうすればいいかを常に考えています」と教えていただきました。

自分でできることを他の人に手伝っていただくことはどんな理由があっても、本人の意思を伴わなければ苦痛やストレスを感じると思います。しかし、介護の場面では命が最優先となるため、危険を伴う場合にはお手伝いさせていただくことになります。「だから仕方ない」で終わるのではなく、利用者さんの自尊心を傷つけず、ストレス緩和に繋げるための方法を見つけ実践する事が大切だと思います。

実習先で行われていた、洗濯物や新聞紙でのゴミ箱作りなど、一人一人の性格や身体状態にあった役割作りはとても大切だと思います。ただ、役割を持ってもらうことだけが大切なのではなく、職員の方や私たち実習生がそばに寄り添い感謝の気持ちを表すことがストレスの緩和や自尊心の維持に繋がるのではないかと思います。実際に洗濯物を干されているAさんに寄り添い「ありがとうございます」と伝えることで、それまではあまり話すことのなかったAさんがとても笑顔でいろいろなことを話してくださいました。また、このような関わりを重ねたことで、実習5日目までは「初めまして」だけだった認知症の方が6日目以降「あなたが来るのを待ってたの」と言っていただけるようになり、最終日には私の手を握り「また来てね」と言ってくださいました。その時の感動と嬉しさは今でも胸に残っています。

この体験は「コミュニケーションを取る」ということの本当の意味を教えてくれました。障害がある方や介護を必要とする方はいつも助けを求めているわけではありません。日常生活動作はみんなと同じで自分で行うのが当たり前であり、支援が必要な時には自分で助けを求めることができます。大事なのは支援が必要な状況を見抜く力を援助者が持つことなのだということを、アルバイトと今回の実習から学ぶことができました。

私は将来、対人援助職に就くのが夢です。残りの高校生活の中で携わる方々に感謝の気持ちで、心を通わせるコミュニケーション技術を身に付けていきたいと思います。

SDGs通信 vol.7

わたしたちにできること

市は令和3年5月に内閣府より「SDGs未来都市」に認定されました。持続可能な（住み続けられる）まちづくりに向けた市の取り組みや私たちができる身近なことについて、不定期で紹介します。

【問い合わせ先】SDGs推進室 ☎0968（41）4488

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
SDGs未来都市 菊池市

17 パートナーシップで目標を達成しよう

2023みんなのSDGsフェスティバルきくち

SDGsにつながる小中学校・高校の特色ある取り組みや企業・団体などの活動を知ってもらうため、市ふるさと創生市民広場で11月12日に初めて開催しました。

このイベントは、令和4年の子ども議会で中学生議員が提案したことがきっかけで実現。ステージ発表をはじめ、体験ブースやフードパントリー、子ども服おゆずり会、市の野菜や果物を使ったグルメなどがあり、延べ1,200人の来場者で賑わいを見せました。

くるみボタン作り
（菊池女子高校）

書道パフォーマンス
（菊池高校）

廃材を活用した積み木作り
（菊池青年会議所）

平和学習紙芝居の上演
（泗水中学校）

フードパントリー＆子ども服おゆずり会

市内の幼稚園・保育園や小中学校をはじめ、市内外の企業・団体の協力で、約2,500点の子ども服と約300点の食料品が集まりました。来場者へ配布し、食料品は午前中になくなり、子ども服は約2,000点が新しい持ち主の手に渡りました。残りの服はリサイクル業者を通して海外で活用されます。

ペットボトルキャップを菊池北中に寄贈

菊池北中学校で取り組んでいるエコキャップ活動をフェスティバルで協力してほしいと提案があり、市役所や公民館など、12カ所に回収箱を設置。

当日は、レジ袋いっぱいのキャップを持って来てくれた人もいて、1カ月間で約43kg（約1万8,700個）が集まりました。ワクチン21人分相当になります。

集まったキャップは回収業者を通して寄付され、世界の子どもたちのワクチンなどに活用されます。

ご協力ありがとうございました！

捨てればゴミ、集めると資源になり、人の役に立つ。北中の活動をもっと知ってもらい、活動の輪を広げたいです。

生徒会長
緒方咲良（おがた さくら）さん（写真㊧）

北中では1年間で1袋程度なので、こんなに集まってすごい。これからもたくさん集めて、SDGsを達成したいです。

環境美化委員長
池邉千有咲（いけべ ちゆさ）さん（写真㊨）